

書評

いよいよ私たち看護師の世界に エコーという新しい風が 吹き始めたことを感じる 1冊

フィジカルアセスメントに活かす 看護のための はじめてのエコー



- 編集 藤井徹也、野々山孝志
- 定価 3,300円(本体3,000円+税10%)
- 判型 B5
- 頁数 164
- 発行 医学書院

評者

地域医療振興協会 JADECOM アカデミーセンター
NP・NDC 研修センター教育・指導課 課長／
診療看護師

筑井菜々子

診療看護師(NP)となり10年の月日が過ぎました。この10年間、超音波(エコー)検査装置を使わない日はないといっても過言ではないほど、毎日何らかの評価でエコーを行っています。患者さんのフィジカルアセスメントをする際、救急の場でのFAST、ベッドサイドでのPOCUS(point-of-care ultrasonography)、PICC(末梢挿入式中心静脈カテーテル)や動脈カテーテル挿入などの手技においても、いつでもどこでもエコーは必須です。

エコーは医師や臨床検査技師が使用するもの?

私がエコーを使い始めた当初、看護師のために書かれた教材はなく、医師や臨床検査技師の方々から技術を教えてもらい、医学書を読んで理解を深めました。特定行為研修が始まり、多くの看護師が研修を受ける今、非侵襲的かつ簡易的でありながら、必要な情報を的確に得ることができるエコーを使う看護師は今後ますます増えていくと考えます。

一方で、まだ多くの看護師が「エコーは医師や臨床検査技師が使用するもの」と考えているのではないのでしょうか。残尿測定に看護師が使用することは一般的であっても、ほかのフィジカルアセスメントや看護技術の1つとしてエコーを行う文化はまだ根付いていません。

しかし、本書のタイトルは「看護のためのはじめてのエコー」です。まさに看護師のためにつくられたエコーのテキストであり、私たち看護師の世界にエコーという新しい風が吹き始めたことを感じる、待ちに待った1冊ではないでしょうか。

約160ページの内容は、実に多彩です。超音波(エコー)検査の基本である

原理や特徴から始まり、各種プローブの位置と画像の読み取りを非常に丁寧に教えてくれます。その上でいよいよ、幅広い看護実践の場での目標別の描出方法の提示があり、その内容は便秘や褥瘡、膀胱や経鼻胃管の留置確認など、全てが臨床に徹した実用的な内容です。さらにはDVT(深部静脈血栓症)の確認や心臓の収縮能、胸水、腹水や心嚢液の評価までが提示されています。

看護師だからこそ 気が付くことがある

毎日、保清行為を行う看護師だからこそ、患者さんの体幹のむくみや両下肢の左右差に誰よりも早くに気が付くことができます。そこでDVTを疑い、エコーを素早く当てて、血栓評価ができれば肺血栓塞栓症を未然に防ぐことができるかもしれません。

昨晩から酸素需要が増した心不全の患者さんがいたらVolume評価をエコーで行い、下大静脈や胸水、腹水、Bラインの確認をし、その所見をもって医師に心不全の悪化を報告できるでしょう。

また、静脈血管確保が難しく何回も血管穿刺をされている患者さんがいたら、エコーで血管描出をして1回で穿刺を成功させることができ、苦痛な思いを減らすことができるでしょう。

これからの看護師は、身体所見をしっかりと取り、フィジカルアセスメントを行い、今何が患者さんに起こっているのかをきちんと評価する能力が求められます。遠くない未来に、臨床の場でエコーが、いつも持ち歩く聴診器のように当たり前に使われている姿が容易に想像できます。本書が看護の世界に新たな一石を投じる1冊になることを確信しています。